

市町訪問



第44回 いきいき元氣なまちづくり 守山市

守山市は、琵琶湖の南東部に位置し、琵琶湖や野洲川の恵みに支えられ、美しい田園風景が広がる総面積55.73㎢の自然豊かな町です。自然災害が少なく、交通アクセスに優れ、子育てや教育環境が良い、住みやすい町でもあります。

優良企業の立地が進み、守山駅前を中心とする中心市街地のにぎわいづくりや、湖畔のポテンシャルを活かした活性化の動きなども進んでいます。こうした前向きな動きや、守山を「伸ばす」施策、市民に「寄り添った」施策の充実により、10年後、20年後を見据え、人・自然・琵琶湖、みんなが幸せなサステナブルなまちづくりを進めています。



【背景写真：比良山系を臨む菜の花畑】

近江妙蓮

特定健診受診率 向上の取組

特定健診受診率向上の取組として、通知による受診勧奨を年3回、電話による受診勧奨を年1回行っています。通知による受診勧奨として、2回はナッジ理論を活用した受診勧奨を行っています。市が委託した事業者のAIシステムを活用し、健診対象者を定期受診者、不定期受診者、未経験者の3種類に分け、定期受診者と不定期受診者を「頑張り屋さん」「心配性さん」「甘えん坊さん」「面倒くさがり屋さん」の4パターンに分け、さらに優先順位をつけ、効果が見込める方にタイプ別の通知を出すようにしています。

また、電話による受診勧奨について昨年度は、過去に市の生活習慣病発症・重症化予防対策事業の対象になつた方で、当年度特定健診を受けられていない方を対象に実施しました。対象者501人のうち、電話番号のわかる人369人に電話をかけ、216人にお話することができました。

健診未受診の理由を聞くと、40～50歳代の方は「時間の都合がつかず忙しい」が多く、60～70歳代の方は「通

院中であるため」が多かったです。70歳代では「健康と思っているから受ける必要がない」という方も多かったです。

「あなたの体が心配です。」「健診の受診券の期限が迫っているので、ぜひ受けてください。」というお話をさせていただいています。電話がつかつた方からは「ご親切にどうもありがとう。」「健診のことを忘れていたので、これから行きます。」と喜んでくださることが多いです。今年度は1～2月ごろの実施を予定しています。



▲「かしこく生かそう 健診結果」リーフレット

健診の受診率は43.7%（令和5年度法定報告値）で、健診受診率向上の取組は引き続き力を入れていきたいと考えています。

健診状況の分析結果から、当市は通院中で健診未受診の方の割合が全国の他の自治体より少なく、本市の特徴があります。今後は、不定期受診の方への取組も手厚く実施していきたいと思っています。



▲「血糖値が気になる人の改善ダイアリー」リーフレット

本市のデータヘルス計画を作成する中で、非肥満者で血糖値が高い方が他市町より多く、糖尿病の指標のひとつであるHbA1cの有所見率も県内で上位（男性2位、女性1位）である

糖尿病発症・重症化予防の取組

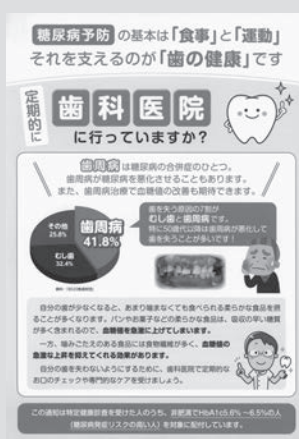
不定期受診の方は、たまたま健診を忘れていたり、忙しくて後回しになっていたりすることがあります。そのような方の背中を勧奨によってそっと押すことで、不定期受診者を定期受診化し、健診受診率を上げていきたいと考えています。

また、特定保健指導の実施率は57.6%（令和5年度法定報告値）で、国の目標値である60%まであと2.4%であり、健診受診率向上と併せて力を入れていきたいです。

ことから始めた事業になります。本市では、糖尿病対策に力を入れており、糖尿病発症予防、ストップ糖尿病大作戦、糖尿病性腎症重症化予防の事業を実施しています。

糖尿病発症予防は、非肥満で糖尿病の発症リスクのあるHbA1c 5.6～6.5%の方を対象に糖尿病に関するリーフレットを個別に送付し、情報提供を行っています。また、希望される方には保健指導を実施しています。

ストップ糖尿病大作戦は、今年度からの新規事業です。特定健診の結果HbA1c 6.0～6.9%の方を対象に、相談会を実施しています。糖尿病早期の段階で、糖尿病について知っていたら機会を持つことで、糖尿病重症化予防にいち早く取り組んでもらいたいと考えています。個別相談を実施した方には、事後アンケートを実施する予定です。



「定期的に歯科医院に行っていますか？」チラシ▲



▲熱心に説明を聞いてくださる市民の方

30～50歳代の働き世代や健康無関心層などを対象に、行動変容を促すしかけとして、休日のショッピングセンターで「推定野菜摂取量測定イベント」を実施しています。令和6年6月から令和7年2月までの間で計5日間実施する予定です。

食育の取組

また、一定の条件がありますが、人間ドック等受診費用の助成や骨密度検査費用の助成も実施し、保健事業の充実に努めています。

イベントでは、推定野菜摂取量の測定と、健康相談を実施しています。参加いただいた方に年齢と当日の測定値の合致点にシールを貼ってもらい、当日の野菜摂取量を「見える化」しています。

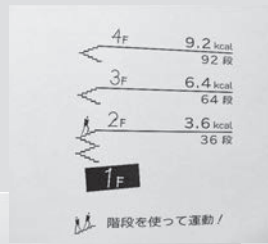
また、産学官連携した食育の取組として、栄養バランスの取れた園給食を中心に食育の推進を図る予定です。龍谷大学の食品栄養学科のゼミに依頼して、保育園の給食レシピを考え、園給食で提供する予定です。

昨年度「第3次健康もりやま21」



▲説明内容に興味津津の子どもたち

を策定し、「自然に健康になれる環境づくり」という視点を新たに追加しました。普段どおりの生活をするだけで健康になれる環境づくりを目指していきます。その一環で、自然に健康になれる運動環境づくりとして、市の庁舎の階段踊り場に、本市の特産品と階段を上った時に消費するエネルギー量等を表示しています。



その他、運動啓発の取組として「BIWATEKU」を活用した取り組みを行っています。

今年度、ウォーキングコースを募集し、採用されたコースは「BIWATEKU」で公開予定です。また、1,000ポイント獲得者向けインセンティブの実施を予定しています。「BIWATE

KU」の賞品応募には、40歳以上は特定健診受診が必須要件であるので、健診受診率向上にも活用しています。

歯科保健の取組

今年度40歳、50歳に到達する方に、歯科健診の無料ハガキ（またはクーポン）を送付しています。

50歳の方の健診無料化は、人生100年時代の折り返し地点での健康チェックを推進することを目的に、令和5年度から始めました。令和4年度の50歳の歯科健診受診者は0人でしたが、令和5年度は126人に増えました。令和6年度からは、50歳到達者に、歯科健診無料クーポンと一緒にごん検診など市が実施する健（検）診の受診勧奨、セルフストレスチェックを記載した「50歳節目到達健康チェック」の通



▲「今年度50歳を迎えるあなたへ」通知

知を送付しています。

本市は歯科の取組に力を入れていて、特定健診受診者への結果返却時や、介護保険第1号被保険者への保険証発送時、介護認定結果通知などの個別通知の際に、歯科保健のチラシを同封して啓発しています。

防煙教育・COPD検診

本市は、喫煙が主な原因である慢性閉塞性肺疾患（COPD）での死亡比が高く、喫煙率も県より高い状況であるため、小中学生の防煙教育、COPD検診を実施しています。

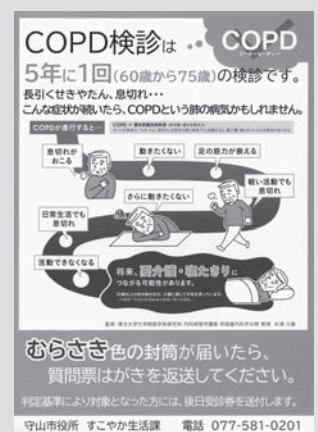
防煙教育では、健康推進員と市内の小中学校を回っています。健康推進員には、小学校では紙芝居を使いながら、中学校ではクイズ形式で啓発をしてもらい、その後市に市保健師などから話をしています。防煙教室を市と健康推進員、学校が協働して実施しているのが本市の特徴です。学校で学んだことを家庭に持ち帰り、家族と会話をしてもらえたらと保護者向けの資料も渡しています。

COPD検診は、COPDや肺がん

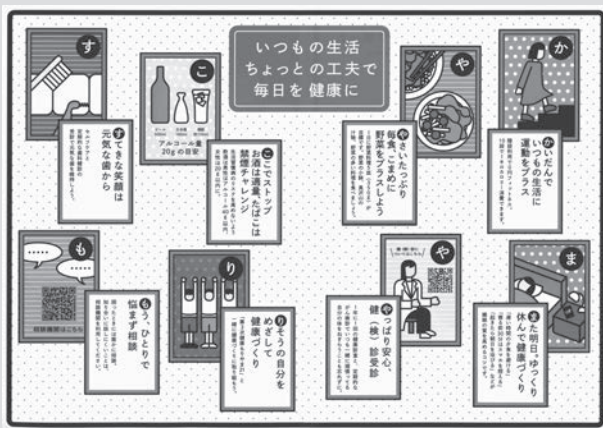


▲「初めての健康づくりの冒険」リーフレット

の早期発見・早期治療につなげ、呼吸器疾患の重症化や肺がんによる死亡を予防することを目的に実施しています。60、65、70、75歳の方を対象に、質問票を送付し、質問票の採点の結果、COPDのリスクが高いと判定された方に受診券を送付しています。



▲「COPD検診は5年に1回の検診です」ポスター



▲「すこやかもりやま」リーフレット

こころの健康に 関する取組

最後に、働く人へのこころの健康に関する啓発として、不眠症状に着目したうつ啓発の推進、歯科保健で紹介した50歳節目到達健康チェックを実施しています。

ポスター掲示やチラシ配布をして、うつの啓発をしています。誰にでも気にかけていただきやすいように「睡眠」というキーワードにしています。ポスターは9月～3月まで、駅や自治会の掲示板に掲示していただいています。



▲すこやか生活課の皆さん「昨年完成した新庁舎前にて、市民の健康生活のために！」

悩みを抱える方が相談窓口を見つけやすいように、ポスター、チラシに2次元バーコードをつけ、相談窓口の紹介をしています。



「最近、ちゃんと眠れていますか」チラシ▲

守山市の魅力・ イベントについて

環境学習都市もりやま もりやまエコパーク

もりやまエコパークは、新環境センターの建設に伴い、市民に愛され、市民の環境・健康・交流を育む活動拠点として令和3年に整備されました。施設には、温水プール、トレーニングジム、交流・学習コーナー等がある交流拠点施設に加え、バラ園、グラウンド・ゴルフ場、複合遊具のある遊びの広場を整備し、幅広い世代に利用されています。守山へお越しの際はぜひお立ち寄りください。



▲野洲川冒険いかだ下り(2023年撮影)

野洲川冒険大会 — いかだくだり —

「野洲川冒険大会—いかだくだり—」は、手作りいかだで野洲川を約2.1kmくだるものです。令和6年7月7日(日)に開催された第43回大会では、守山市や滋賀県内だけでなく、県外からもたくさんの参加者があり、家族や仲間を楽しめるイベントとして親しまれています。次回の大会にみなさんもチャレンジしてみたい?!

11月1日から12月31日は
国民健康保険料(税)納付強調月間
3月1日から5月31日は
国民健康保険料(税)完納月間です。



国民健康保険料(税)納付強調月間・国民健康保険料(税)完納月間ポスター

国保連合会では、国民健康保険料（税）納付強調月間および完納月間の収納率向上対策として、ポスターの作成をはじめ、びわ湖放送でのテレビコマーシャル、エフエム滋賀でのラジオコマーシャルなどを行い保険料（税）の納付意識の啓発に取り組んでいます。



第64回 全国国保地域医療学会 地域包括医療・ケアでの地域の「絆」をより強く ～地域医療学会発祥の地「イーハトーブ」から未来へ発信～

10月4日(金)、5日(土)、岩手県のアイーナ(いわて県民情報交流センター)において第64回全国国保地域医療学会が開催されました。全国から国保診療施設関係者など、滋賀県からの参加も含めた約1,100人が参集し、研究発表や意見交換、交流を行いました。



開会の言葉を述べる磯崎一太学会長
(岩手県地域医療研究会(国保診療施設協議会)会長、岩手県：洋野町国民健康保険種市病院長)

開会式では、学会長である磯崎一太氏(岩手県・洋野町国民健康保険種市病院長)から、昭和29年に開催した岩手県内直診医師懇談会を経て、初めて「地域医療」を冠した岩手県地域医療研究会が発足したことや、岩手県の交通アクセスや医師不足など医療提供体制の確保についての苦難の歴史にも触れ、そのような環境下で沢内村(現西和賀町)が豪雪、貧困、多病・多死という悪条件の中、全国で初めて乳児死亡ゼロを達成し、それらの活動が現在の地域医療学会の礎となったと述べられました。

午後からの国保直診開設者サミットでは、「国保直診の課題について市町村長とともに語ろう」をテーマに、4人の発言者からの発表がありました。

鈴木重男岩手県葛巻町長は、町民のニーズを把握することに努め、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けることができる地域包括ケアシステムのさらなる推進の取組について述べられ、葛巻病院をはじめ関係機関と一体となって、子ど

第1日目の特別講演では、岩手県一関市病院事業管理者で前岩手県地域研究会会長の佐藤元美氏より「国保地域医療学会の礎―岩手県地域医療研究会の歩み」と題して講演がありました。その中で、有志の先生方による直診医師研修会が開催されたことをきっかけに直診医師の組織化の模索が始まり、のちに「岩手県地域医療研究会」と命名され、それ以降、春季に医療問題の勉強会を、秋季に各市町村・各診療施設での医療保健活動のまとめを発表する機会として継続されてきた経緯について話されました。

セミナーと5つの専門部会、さらに249題の研究発表があることを紹介され、「この成果や取り組みを各施設に持ち帰り実践していただければ幸いです」と開会のあいさつがありました。

もから高齢者まで全ての町民がともに支え合う心豊かな地域づくりのための施策を展開し、安心して生活できるまちづくりを進めていきたいと意気込みを語られました。

内紀和彦岩手県西和賀町長は、子供から大人まで全世代を診療できる体制の堅持について説明され、「財政的な面や人材確保の面で厳しさが増してきているが、町民全体が町にとって必要不可欠な存在であるとの意識を持ち続けられるよう日々取り組み、さわうち病院とより連携を深め病院の発展に努めたいと思っています」と述べられました。

小澤幸弘神奈川県三浦市立病院総病院長からは、平成19年から地域包括ケアシステムに対応すべく自院内の体制を整えてきたことに触れられ、「やはり最も必要なものは地域包括ケアを支える医療人材の育成である。今年、神奈川県による「かながわ地域看護師養成事業」の事業化が決まり、この事業は地域内の異なる施設間での人材交流を行い、地域の医療や福祉を学ぶことで、自施設の役割を理解し施設間の連携に強い、地域医療構想、地域包括ケアシステムの中で活躍することができると述べられました。

最後に、宇佐美哲郎大阪府能勢町国民健康保険診療所長から、大阪大学とオムロンヘルスケア社との産学官連携で「能勢町健康長寿事業」「能勢健康長寿研究」「のせけん」を

展開している事例発表がありました。これは、40歳以上の住民に家庭血圧計を配布し、毎日朝と夜の家庭血圧を測定して血圧手帳に記入してもらうことで、健康寿命延伸効果や認知症予防効果が得られないかを検証する、世界的に見ても珍しい大規模な介入研究であることが紹介され、「この「のせけん」を足掛かりに、「健康なまち能勢」に繋がる保健事業を展開し、医療や福祉と連携したまちづくりへと繋げたい」と意気込みを語られました。

第2日目のシンポジウム「高齢・人口減少社会における過疎地での地域包括ケア体制のあり方」国保直診に求められる役割とデジタル化の推進」では、それぞれの施設で行われている取組について、登壇者からの



閉会挨拶を述べる小野会長
(全国国民健康保険診療施設協議会会長、秋田県：市立大森病院長)

発表、ディスカッションが行われました。

閉会式では、全国国民健康保険診療施設協議会の小野会長から、「素晴らしい企画で大変充実した内容でした。学会長のリーダーシップ、お支えいただいた3名の副会長、国保連合会のみなさまのおかげです。来年の学会でも成果の発表を行い、交流を深めてもらえればと考えております」と感謝の言葉が述べられました。

その後、国診協旗引継として、第64回学会磯崎一太会長から国診協小野会長へ旗が渡され、小野会長から第65回学会高垣有作会長へ引き継がれました。

また、第65回学会高垣有作会長から「次回の第65回国保地域医療



次回の全国国保地域医療学会会長である高垣有作氏
(和歌山県：国保ささみ病院顧問)へ国診協旗が引き継がれました。

療学会は「人口減少地域の生活を守る地域包括医療・ケア」をメインテーマに和歌山県で開催されることについて述べられ、同時期に開催されている大阪万博のことにも触れられ、参加者を大歓迎するとあいさつがありました。

2日間を通じて、さまざまな分野から200題を超える口演発表、ポスター発表などの研究発表や、各セミナーが行われました。滋賀県からは口演発表8題の発表がありました。

また、閉会式の後、全国国民健康保険診療施設協議会会長表彰の表彰式が行われ、滋賀県から2名の方が表彰されました。(被表彰者および発表者の演題は、17ページに掲載のとおりです)。

第65回国保地域医療学会 の開催地は和歌山県です

【会期】
令和7年10月3日(金)・4日(土)

【会場】
和歌山城ホール
ダイワロイネットホテル和歌山